

2019. 6. 15

畑 啓之

これがホルムズ海峡か 結構広いようにも思うのだが



ホルムズ海峡 (Wikipedia)

ペルシア湾沿岸諸国で産出する石油の重要な搬出路であり、毎日 1700 万バレルの石油をタンカーが運ぶ。日本に来るタンカーの全体の 8 割、年間 3400 隻がこの海峡を通過する。船舶の衝突を避けるため幅 3km ずつの航行出入レーンが設けられている。国際海峡であるがオマーン領であるため同ムサンダム半島の先にある小島のレーダーで航行を監視している。レーンは海峡通過後イラン・アラブ首長国連邦が領有権係争中の大トンプ・小トンプ島付近を通ることになる。

REUTERS 2019 年 6 月 14 日

コラム：ホルムズ海峡緊迫、真のリスクは「制御不能」の危機

この狭い海峡は、1979年のイラン革命以来、原油トレーダーの関心を一手に集め続けている。イランはこれまで、敵対国の輸送船に対して海峡を閉ざすとたびたび脅し、米国やその同盟国は、必要とあれば武力行使で海峡の交通を維持し、航行の自由を確保すると反発してきた。

海峡の入り口のすぐ南のオマーン沖で13日、日本の石油タンカーを含む2隻が攻撃を受けて立ち往生し、イランと米国の対立が新たな局面に突入するのではとの懸念が広がった。海峡自体の最も狭い場所は幅約34キロだが、タンカー航行は一方向の幅約3.2キロという狭い輸送レーンに限定されており、衝突リスクを抑えるために航行間隔を開ける仕組みが導入されている。回避行動を取る余地が限られているため、ゆっくりと進むタンカーの交通は、両岸や海峡内の敵船からの攻撃に一層脆弱になる。